

令和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号：25201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2019

課題番号：26861866

研究課題名（和文）育児休業を取得した看護職のキャリアパス支援モデルの構築

研究課題名（英文）Construction of Career Path Support Model for Nursing professionals Taking
Childcare Leave

研究代表者

梶谷 麻由子（KAJITANI, MAYUKO）

島根県立大学・看護栄養学部・助教

研究者番号：20592075

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、出産後に育児休業を取得した看護職のキャリアパス支援モデルの構築を目指している。これまでに行った子育て期の看護職を対象にした職場復帰の実態と復帰後の継続を支えた体験等を明らかにした。結果は学会で発表し、論文については現在投稿中である。これまでの結果を踏まえ、キャリアパス支援モデルの構築を試みた。今後は、多様な働き方に適用できるキャリア支援モデルの内容についての更なる検討と検証が必要であるという示唆を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

キャリアパス支援の多様なパターンモデルを基礎教育の時点から提示することで、看護職が安心して出産・育児をしながら、継続して専門職としてのキャリア形成ができ、その高い能力が発揮され続けることで、社会全体としての労働力、就業の質も高まり、女性の新たなアイデアを活用することでイノベーションを促すことにもつながる。また、子育て等の理由で、離職した看護職の復帰に向けても応用できると考える。

研究成果の概要（英文）： This study aims to construct a career path support model for nursing professionals who took childcare leave after childbirth. We clarified the actual conditions of returning to work and the experience that supported continuation after returning for nursing staff in the child-rearing period. The results are presented at the academic conference, and the paper is being submitted. Based on the results so far, we tried to construct a career path support model. We obtained the suggestion that further study and verification of the contents of the career support model applicable to various work styles will be necessary in the future.

研究分野：基礎看護学

キーワード：看護職 キャリア継続 育児休暇 結婚・妊娠・出産 キャリアパス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国では、出産後も育児をしながら就業継続ができるようワーク・ライフ・バランスを基盤とした子育て支援が進み、さまざまな制度が整備されてきた。育児休業制度の取得率は年々増加し、第1子出産後の女性の就業継続率は上昇している。看護職の子育て支援も組織の体制づくりが進められ育児休業取得率や復帰率は増加傾向にある。一方で、看護職には、医療技術の急速な進展による高度な専門的な能力が年々求められるため、結婚・出産等といった職場を離れると、復帰には様々な戸惑いや不安が伴うことも報告されている(龍野, 2012)。出産を経験し復帰した看護職のキャリア継続の後押しとなった体験を明らかにして、キャリア継続を見据えた子育て期にある看護職への支援は、個人のキャリアとしてだけでなく、その高い能力が発揮され続けることで、医療の質の向上につながることを期待されるため大変重要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、育児休業制度を取得し、職場復帰した看護職へのサポートの実態(研究1)と復帰後のキャリア継続の後押しとなった体験を明らかにし、出産等でキャリアを中断した看護職のキャリアパス支援モデルの構築を行うことである(研究2)。

3. 研究の方法

(1) 予備調査(文献検討)

看護職の育児休業取得者に関する研究の動向とキャリア継続に資する研究課題を明らかにすることを目的に医中誌 Web 版(Ver.5)を用いて検索した。検索期間は1992~2016年までで、キーワードは「育児休業」&「会議録を除く」、「産前産後休暇」&「会議録を除く」、「育児休業」&「復職/職場復帰」&「会議録を除く」、「看護職」&「育児休業」&「復職/職場復帰」&「会議録を除く」、「看護職」&「育児支援」&「ニーズ」&「会議録を除く」とし、これらを単純あるいは組み合わせた。対象とした文献は、原著論文、研究報告、実践報告、資料(解説/特集を含む)の文献とした。対象文献を年次推移別、研究内容別と研究対象別それぞれの研究方法に分析した。

(2) 研究1

全国(岩手、宮城、福島、熊本、大分を除く)の200床以上の医療機関(国・公的医療機関・医療法人・学校法人)を無作為に抽出し、75施設に所属するH25~H27年度に育児休業制度を取得後H28年9月1日までに職場復帰した看護職1675名を対象に無記名自己記入式アンケートを実施した。調査項目は、予備調査と先行研究を基に自作し、年齢、臨床経験年数、子どもの人数、育児休業取得期間、育児休業復帰からの期間、保育所利用状況、子育て支援者の有無、職業継続の意思等の個人的特性、雇用体制、職場復帰前後の職場からのサポート、育児支援制度の利用状況等の組織的特性等である。分析は各項目別で単純集計後、個人的特性、組織的特性と職業継続の意思の項目についてクロス集計、相互の連関性について2検定をした。統計処理にはSPSS Ver.17.0J for Windowsを用い、有意水準は、 $p < 0.05$ とした。

(3) 研究2

病院、診療所・訪問看護、介護施設に所属し結婚・妊娠・出産を経てキャリア継続している看護職7名を対象にフォーカス・グループ・インタビューを実施した。インタビュー内容は、結婚・妊娠・出産後のキャリア継続についてどのように捉えているか、キャリアを継続することが困難と感じた経験、困難を乗り越えるのに必要なサポート等とした。分析は質的統合法(KJ法)を用いて行った。

4. 研究成果

(1) 予備調査(文献検討)

研究内容は、「職場環境」「子育て支援」「職場復帰支援」「ワークライフバランス(以下;WLB)」「キャリア継続と子育て」の5つに分けられ、育児に関する法律の制定や改正後に文献数が一時的に増える傾向があった。特に、「職場復帰支援」と「キャリア継続と子育て」は2010年頃から増加していた。最も多かった研究内容は、「職場復帰支援」19件(45.2%)で具体的な内容として、施設独自の研修や復帰支援プログラムの実施と評価が大半であった。「WLB」は8件(19.0%)で、内容はWLBの実践紹介等の事例報告が多かった。以下順に、「キャリア継続と子育て」7件(16.7%)、「子育て支援」5件(11.9%)、「職場環境」3件(7.1%)で、5つの研究内容を分析した結果、量的研究18件(42.9%)、事例報告18件(42.9%)、質的研究6件(14.3%)だった。研究対象は、「育児休業を取得した女性看護職」「育児休業中の女性看護職」「育児休業取得後に復職した女性看護師」「子育て中の女性看護職」「女性看護職」「女性新人保健師」「女性保健師」の7つに分けられ、研究対象を分析した結果、量的研究19件(45.2%)、事例報告18件(42.9%)、質的研究5件(11.9%)だった。以上のことから、育児休業を取得した看護職に対する復帰支援はキャリア継続を視野に入れた取り組みとして注目されていること、「WLB」「子育て支援」「職場環境」に関しては、常に関心の高い研究内容であると推察できた。今後も育児に関する法律の制定や改正に伴った就業に関する実態調査は、育児休業を取得した看護職のみならず、全ての看護職をとりまく就労環境や育児休暇取得から復帰後に続く支援を検討する上で重要な調査になると

考える。しかし、「職場復帰支援」に関する調査内容の大半は、施設内での研修の実施と評価の報告にとどまっており、看護職としての個々のキャリアプランを視野に入れた具体的な取り組みは少ない傾向があった。

(2) 研究1

アンケートの回収数 1029 部 (回収率 61.4%)、有効回答数は 1026 部 (有効回答率 99.7%) であった。個人的特性の特徴として、育児休業を取得した看護職は、看護職としての継続意思が高く、特に家族の理解と協力がある、育児支援制度を利用がしやすいと思っているものは、そう思っていないものに比べ、看護職を継続したい意思を示していた。組織のサポートとしては、育児休業制度等の子育てをしながら働く制度は整ってはいるものの、育児休業から復帰した看護職の9割は、育児支援制度の利用のしづらさを感じていることが明らかとなった。特に、短時間勤務制度や有給休暇取得と深夜業務の免除に関しては著明であった。復職部署のサポートについては、勤務体制・時間管理等のサポートや上司や同僚の理解と協力があるとの回答が6割だった。育児休業中のサポートは少ないが、育児休業後のサポートは積極的に行われており、看護職本人達もそのサポートを日々受けていると感じていた。個人的特性、組織的特性と職業継続の意思についてクロス集計した結果、二つの属性間に有意差が認められたのは、家族の理解と協力の有無、育児休業制度と有給休暇のとりやすさ、深夜業務免除の申し出のしやすさであった(表1)。このことから、育児休業取得者の職業継続支援には、組織として看護職個々のキャリアビジョンを把握したうえで、育児休業中からの継続したサポートと職場復帰後には育児支援制度を活用しやすい仕掛けづくりが重要である。特に気軽に相談できる場所や相談体制の整備については十分でなく、出産前後にさまざまな不安を抱える看護職にとって必要な支援になることが示唆された。

表1 個人的特性、組織的特性と職業継続の意思の連関性

	職業継続の意思			有意確率
	あり	なし	計	
家族の理解と協力の有無				
有	533	96	629	$\chi^2=15.85$ *
無	295	100	395	
計	828	196	1024	
育児休業制度取りやすい				
思う	724	154	878	$\chi^2=10.20$ *
思わない	104	42	146	
計	828	196	1024	
有給休暇取りやすい				
思う	241	33	274	$\chi^2=12.17$ **
思わない	587	163	750	
計	828	196	1024	
深夜業務の免除の申し出しやすい				
思う	255	40	295	$\chi^2=8.40$ **
思わない	568	155	723	
計	823	195	1018	

** p < 0.01 *** p < 0.001

(3) 研究2

分析の結果、結婚・妊娠・出産を経てキャリアを継続している看護職は、仕事と子育てを両立する中で続く葛藤として【仕事と子育ての苦悩】を抱き、困難や葛藤が続く中でも割り切ろうと【仕事と子育ての折り合い】をつけていた。しかし、現実には配慮のない職場の上司の考えや対応をする【仕事と子育てに配慮のない上司の存在】や子育て支援制度を補う地域とつながる場が不足している【仕事と子育てを支える環境の不十分さ】があった。このような状況がありながらもキャリアの継続を支えたのは、子育てを支えてきてもらった周りへの感謝と専門職としての姿勢の【看護職を続けたい思い】であり、もう1つの側面として、上司の理解が職場の雰囲気づくりを促進している【働きやすい職場の環境】であった。さまざまな困難や葛藤がある中で揺らぎながらも、このような体験が仕事と子育てを支えてくれる周囲への感謝と働きやすい職場風土を開拓しようという思い【子育てする看護職としての自覚】に発展していた(図1)。

結婚・妊娠・出産を経験した看護職がキャリアを継続していくうえでは、子育て支援制度の浸透と利用しやすい職場の雰囲気作りとともに、看護職同士でキャリアを語り合う交流の場やつながる場も必要な支えとなることが示唆された。

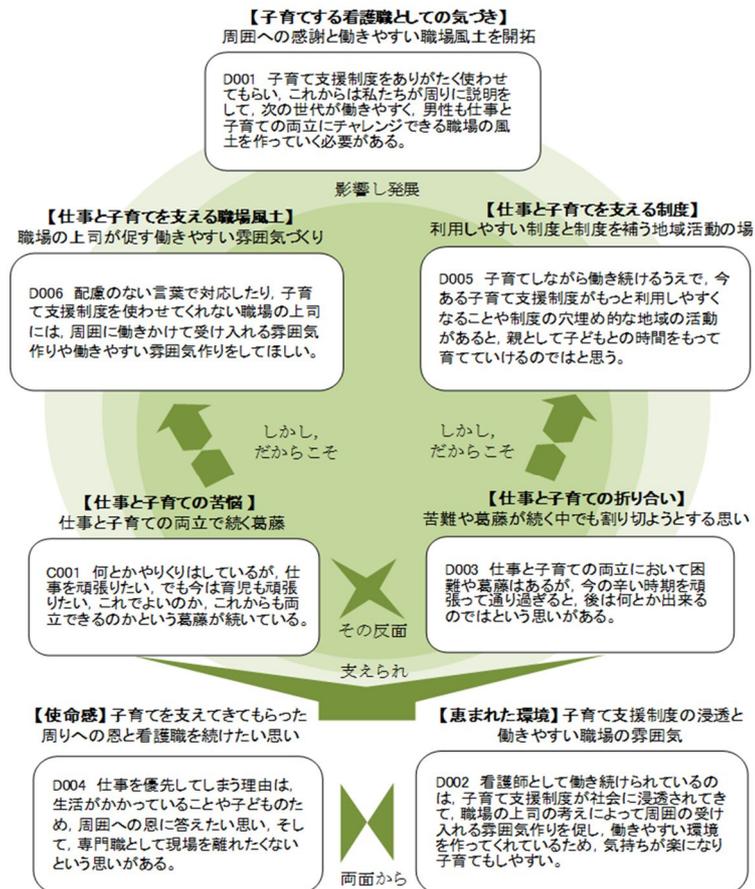


図1. 結婚・妊娠・出産を経験した後にキャリア継続している看護職の体験

これまでの研究結果を統合し、看護職のキャリア支援には「気軽に相談できる」「キャリアを語る場」「つながる場」などがキーワードになることが示された。しかし、生涯を見据えたキャリア継続の支援には、働き方の多様化や職場復帰・再就職後の経過を考慮し、多様なキャリアパターンに対応できる具体的支援については更なる検討が必要である。

< 引用文献 >

1. 国立社会保障・人口問題研究所：第14回出生動向基本調査（平成22年），参照日2013年10月9日，<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14/doukou14.asp> .
2. 龍野千歳，田口理恵[袴田]，河原智江，他：第一子の育児休業中の母親が人のつながりの中で求める感情面と情報面のサポート，横浜看護学雑誌，5(1)，p.63-70，2012 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 梶谷麻由子	4. 巻 48
2. 論文標題 育児休業を取得した看護職への職業継続に関するサポートの実態	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護学会論文：看護教育	6. 最初と最後の頁 138-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 梶谷麻由子
2. 発表標題 看護職の育児休業取得者に関する研究の動向と課題
3. 学会等名 日本看護研究学会中四国地方会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梶谷麻由子
2. 発表標題 育児休業を取得した看護職への職業継続に関するサポートの実態
3. 学会等名 第48回日本看護学会 看護教育 学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梶谷麻由子
2. 発表標題 結婚・妊娠・出産を経てキャリア継続している看護職の体験
3. 学会等名 日本看護学教育学会 第29回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----